



念仏者の言葉

門松は冥土めいどの旅の一里塚

目出度めでたくもあり、

目出度めでたくもなし

一休ぜんじ禅師



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。上記は一休さんの愛称でお馴染みの一休禅師ぜんじが新年を迎えられた時のお言葉です。新しい年を迎えるという事は、私たちが恐れる「死」へまた一歩近づいたという事で、それが本当におめでたい事なのですかという問いかけです。最近長年に渡ってお寺のお世話をしていた方が立て続けに亡くなっていきました。改めて無常むじょうというものや、思い通りにならないのちを生きているのだと感じました。これは自分に置き換えてもよくわかります。私は時々布団の中で急に不安になることがあります。自分はまだまだ元気に生きていくと思っていますが、実はそう思い込んでいただけであり、いきなり死がやってくるのではないかと考えると、急に不安で眠れなくなります。死がやってくるという事は、家族など大切だと考えているものを全て手放すという事です。しかしよく考えればいづつどうなるかわからない不完全なものを頂いて、偶然にも有難く人として歩ませていただいているのが私たちです。そうであればどのように人生が終わろうとも「人として生まれて本当にありがたかった」と手を合わせてのちを終えていきたいものです。一休さんは人生の終わりを意識せずに今を生きている私たちに、「しっかりと限りある今を見つめなさい」と呼び掛けており、それがわかるという事が何よりも「目出度めでたい」という事だと思えます。



私事ですが約一年前より保護司の委嘱を受けまして、更生保護に携わっています。保護司とは法務大臣から委嘱を受けて非常勤の国家公務員であり、実質民間のボランティアとして犯罪や非行に陥った人の更生を任務としています。現在担当を受け持ち、先輩保護司の方などにご指導いただきながら活動しています。現在NHKで館ひろしさん演じる保護司を主人公にした「生きて、ふたたび」というドラマが放送されており、この一月末にも有村架純さん演じる保護司を主人公とした「前科者」という映画が上映されます。このように社会的に更生に対する注目度が上がっているように思えます。私は毎週「生きて、ふたたび」を見ていますが、保護司の奮闘も面白いですが、罪を犯した人の更生の難しさや、罪を犯すまでの様々な過程を見て色々と考えさせられました。

このドラマを見ながら私はあるプロ野球の監督の言葉を思い出しました。その監督の父親はかつて保護司だったそうで、いつも「犯罪者は出会いの失敗者なんだ」という言葉が口癖だったそうです。この父親はたくさん罪を犯した人との関りにおいて、自ら進んで犯罪に手を染める人は稀であり、間

違った出会いによってそのほとんどが結果的に犯罪に手を染めてしまったと感じていました。出会いが違えば全く別の人生があったという事です。ドラマを見ていると確かにそうでした。友人にそのかされたり、親に虐待されていたり、夫にDVを受けたりという事がありました。親と子の関係も一種の出会いです。そして出会いとはまさに縁です。偶然であり基本的に私たちが選ぶ事は出来ないのです。親鸞聖人は『歎異抄』において、「さるべき業縁のよおさば、いかなるふるまいもすべし」とおっしゃいました。私たちが人間は縁次第でどんなことになってしまうような身を生きているという事です。私たちが縁次第では簡単に罪を犯してしまう弱い存在です。私たちはまだそのような縁がないことに感謝しなくてはなりません。そうであるからこのプロ野球の監督の方は、縁あって自分と出会った選手たちにとって、自分との出会いが失敗になつてはいけないという事を常に考えて、人と関わっていかれたそうです。ミスをした選手を根気強く指導し、一流に育てていきました。一期一会とはよく言いますが、何気なく当たり前のようになっている日常も、偶然による出会いだらけです。そんな出会いに感謝し、一日一日を生きていきたいものです。

各種募集

たんじょうえ



毎年四月に親鸞聖人誕生会・新生児初参り式を黒部市内の寺院にて持ち回りで開催していますが、今年の四月には七年ぶりに辻徳法寺で行われます。この行事は四月の親鸞聖人の誕生をご縁として、お子さんやお孫さんの健やかな成長を願い、初めてのお寺参りを行うものです。前回の平成二十七年の初参り式には九名のお子さんが参加され、とても良い思い出になったようです。今回も新生児から小学生くらいまでのお子さんを募集していますので、是非ご参加ください。この「願生」に募集チラシを同封いたしますので、参加希望の方は是非お寺までご連絡ください。

また亡き人の分骨を京都のご本山へ納骨したいけれど、なかなか機会のない方に、真宗大谷派富山教区が「収骨団体参拝」というものを企画しました。これは富山教区内の門徒の方々との納骨を目的とした団体参拝を行い、同時に本山の同朋会館に一泊し、奉仕活動等を行うものです。これもこの「願生」に募集チラシを同封いたしますので、問い合わせや参加希望の方はお寺までご連絡ください。

年忌表

法事は亡き人を偲しのび、同時に亡き人からの大切な願いを確かめていく仏縁の場です。

今年の年忌表は左記の通りです。年忌法要の当たり年のお方の名前を例年通り本堂に掲載していただきますので、ご確認ください。広いお寺の本堂で密を避けながら勤める事も出来ます。法事の執行を希望される方はお寺までご連絡ください。



法要名・亡くなられた年

1周忌	令和3年(2021)
3回忌	令和2年(2020)
7回忌	平成28年(2016)
13回忌	平成22年(2010)
17回忌	平成18年(2006)
23回忌	平成12年(2000)
27回忌	平成8年(1996)
33回忌	平成2年(1990)
37回忌	昭和61年(1986)
43回忌	昭和55年(1980)
50回忌	昭和48年(1973)



坊守日記



本年もどうぞよろしくお願ひします。昨年十一月に京都の東本願寺へ家族でお参りに行つてきました。本山では報恩講が勤修されてお参り、今回の参拝目的は娘と一緒に「子ども報恩講」に参加することでした。娘は物心がつく前に本山へ参拝したことはありませんが、改めて立派で壮大な建物と厳かな雰囲気にも本人も感動し、とてもよい経験になったと思います。以前より本人には本山の事や親鸞聖人の話はしてきているものの、「百聞は一見に如かず」というように、体験することによってより身近に感じられたようです。また娘は先日うなづき友学館で住職がお話した、三本柿の講演会にも参加しました。辻徳法寺の歴史や三本柿の事を学ぶよい機会になり、本人もとても喜んでいました。これらを通して親としてコロナ禍ではありますが、可能な範囲で色々な事を経験し、視野を広げていって欲しいと思った出来事でした。



東本願寺にて

編集後記



この秋は富山別院の定例法座から始まり、他の寺院での報恩講、公民館での仏教青年会、保護司関係の講話などたくさん場所で法話や講話をさせていただくご縁がありました。これらの反応も概ね良いものであり、このようなご縁をいただきました事を本当にありがたく思っています。最近では色々な法座でお話することにも慣れてきており、その理由は毎月十日にお寺で行っている定例法座であることに間違いありません。お寺を悩み苦しみを共有する場として開くために、約一年前より毎月法話を聞く機会として定例法座を始めました。毎月私がお話させていただくことが出来るのは、いつも参加して下さる方々がいらつしやるお陰です。本当にありがたく思います。今後も更に頑張っていきたいと思ひます。



派大谷 親鸞聖人の足跡
三本柿の寺

辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokujoji.net>

[@temple_english_tokujoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokujoji)



次回の定例法座の予定は3月10日(木)13時半～です
1、2月は足元が悪いのでお休みいたします